

4月のモロッコの政治情勢等を、当地報道を中心に以下のとおりまとめました。要人往来については末尾の一覧表をご覧ください。

なお、当政治月報は当月中にメディアで多く取り上げられた話題をその都度記録したもので、これらニュースについての当館及び日本政府の立場を何ら反映するものではありません。

【主な出来事】

- ◎（8日）春期国会の開会
- ◎（15日）首相主宰閣議による次期衆議院選挙関連法案の採択
- ◎（20日）モハメッド6世国王のモロッコ・湾岸諸国首脳会議出席
- ◎（29日）MINURSOマンデート延長安保理決議の採択

<内政・政局・治安>

1 リビアISILと関係を有する2名のテロリストの逮捕

（1）3日、内務省は、1日及び2日にリビアISILと関係を有する2名をカサブランカとハド・スアレム（カサブランカ近郊）で逮捕したと発表した。

（2）3月24日に逮捕されたテロ細胞に対する捜査の過程で、今回逮捕された2名の容疑者はリビアISILと連携し、資金面で協力したことが明らかになっていた。なお、当該テロ細胞は、モロッコ国内の平和と安定を脅かすために各種治安機関等への攻撃を企てていた。

2 春期国会の開会

8日、衆参両議院の春期会期が開会した。2011年憲法の要請により、今期会期では、アマジグ語の公式文字の制定にかかる組織法案、モロッコの言語・文化に関する国家評議会の開設にかかる組織法案、ストライキ権の実施にかかる組織法案、摂政評議会の開設にかかる組織法案、法律の非合憲性訴求のための法案が提出される必要がある。この点、開会後のセッションで、衆議院は摂政評議会の開設にかかる組織法案を全会一致で採択した。また、次期衆議院選挙のための選挙関連法案も今期国会で議論が行われる予定。

3 首相主宰閣議による次期衆議院選挙関連法案の採択

（1）15日、首相主宰閣議（Conseil du gouvernement）が行われ、次期衆議院選挙

関連法案が採択された。

(2) この法案では特に次期衆議院選挙における最低得票率を現行の6%から3%とする内容が含まれており、この法案が国王主宰閣議 (Conseil des ministres) で採択される場合、次期衆議院選挙で小政党の代表権が更に確保されることとなる一方、小政党の乱立 (バルカナイゼーション) が促進されることとなる。最低得票率の低下には最大与党PJD (公正と発展党) と野党PI (イスティクル党) が反対していたが、とりわけ与党PPS (進歩社会主義党) や野党USFP (人民勢力社会主義同盟) など与野党双方の中小規模政党の要請に配慮した結果、本法案が閣議にて採択された。

4 PJDとPPSの協力合意

16日、PJDとPPSは合同政治局会合を開催し、10月に予定されている衆議院選挙の結果にかかわらず、両党の協力を促進することに合意した。ベンキランPJD党首 (首相) は、「我々が政府与党となる場合には、(PPSと) 共に政府を形成し、我々が野党となる場合には、(PPSと) 共に野党となる」旨述べた。

5 教員インターンと政府間の合意

(1) 20日、その待遇に不満を抱え、これまでデモやストライキを行っていた教員インターン連合は政府と待遇改善の合意に達した。この合意により、政府は本年12月末に教員インターンの採用試験を実施する予定であり、この試験に合格した教員インターンは明年1月に雇用されることになる。雇用される教員数は2017年予算案の採択に依るものの、新しく1万名の教員が雇用される予定。

(2) 他方、教員インターン連合は25日から教員養成プログラム (理論) に戻ることであり、この期間、教員インターンはプログラム実施期間中1200DHの手当を受け取るようになる。

6 ナドールにおけるテロ細胞の解体

(1) 29日、内務省は、ナドール市 (モロッコ北東部) に根拠を置く3名のテロ容疑者で構成されるテロ細胞が治安機関により解体されたことを発表した。内務省によると、この容疑者らは、モロッコ国内の重要施設に対する自動車爆弾テロを計画していた。

(2) 内務省によると、逮捕された3名の容疑者はISILに忠誠を誓い、モロッコ北部でISILの首長国を確立することを指示され、重要施設に対する自動車爆弾を使用したテロ行為の準備をかなり進めた段階にあったと述べている。

<外交・国際関係>

7 第6回モロッコ・カタール合同委員会の開催

(1) 5日、ドーハにて第6回モロッコ・カタール合同委員会が開催され、モロッコからはベンキラン首相が出席、カタールからはシェイク・アブドゥラー・ビン・ナーセル・ビン・ハリーフ・アール・サーニ首相兼内務大臣が出席した。

(2) 両国は同委員会にて、司法協力協定、運輸協定、港湾協力協定、石油・ガス・再生可能エネルギー・電力・エネルギー利用に関する覚書、文化・芸術・スポーツ分野におけるプログラム等を署名した。

(3) ベンキラン首相は同委員会において、カタールからの更なる直接投資の推進を要請した。サーニ首相は、西サハラ問題におけるモロッコの立場を支持する旨再度表明し、モロッコの自治権提案に対する支持を確約した。

8 モハメッド6世国王とプーチン露大統領との電話会談

12日、モハメッド6世国王はプーチン露大統領と電話会談を行い、両首脳は3月の国王訪露を受けた様々な分野における二国間協力の進展状況に満足の意を表した。両首脳はまた、西サハラ問題を巡る最新の状況に強い懸念を表明し、4月末に予定されているMINURSOマンデート延長安保理決議においてバランスが取れ、生産的な解決に達するよう調整を強化し、恒常的な連絡を維持することを決定した。

9 モロッコ・湾岸諸国首脳会議におけるモハメッド6世国王演説

20日、リヤドで開催されたモロッコ・湾岸諸国(GCC)首脳会議の際に、モハメッド6世国王が演説を行い、西サハラ問題に関するGCCからの協力への謝意を表明した。また、本件首脳会議後共同コミュニケが発表され、GCC諸国はサハラにおけるモロッコの主権及び西サハラ問題の解決策の基本として、モロッコによって提案された自治案を支持することを確認した。

10 気候変動にかかるパリ協定署名

(1) 22日、ニューヨークの国連において、ララ・ハスナ王女が本件署名式典に出席し、国王スピーチを代読し、メズアール外務・協力相が本件協定に署名した。

(2) 代読された国王スピーチの要旨以下のとおり。

(ア) モロッコは、気候変動にかかる取り組みに忠実であり、環境保全のための国内政策を策定した。気候温暖化を緩和するために、2030年までに二酸化炭素排出量を32%削減する。

(イ) モロッコは、「緑の経済」に組み入れるための多数のイニシアチブを発出した。同様に環境及びエネルギー効率の戦略にかかる国家憲章を採択し、再生可能エネルギーのセクターを自由化した。モロッコは再生可能エネルギーについては野心的な目標をか

かげ、2030年までに国家の電力の52%を供給できるよう国家戦略を策定した。

(ウ) 気候変動にかかる多数国間での約束を追求することの必要性について、マラケッシュにおけるCOP22が世界的なレベルでの意識啓発を強化する機会となることを期待している。

(エ) 望ましいエネルギーに変換するためには、特に炭素税を適用することも含めこれを促進するためのあらゆる仕組みを開拓すること、及び保険、海上交通、航空を含めたあらゆる鍵となるセクターをカバーすることが求められる。

(オ) 我々は、COP21において、連帯的かつ野心的な気候変動にかかるあらたな体制の土台を設けることに成功した。このように、パリ会議は低炭素時代の幕開けとなった。(COP22における)パリ協定履行にかかる交渉は、国際社会の責任及び連帯の精神を証明することになる。

1.1 第5回モロッコ・ヨルダン合同委員会の開催

22日、アンマンにて第5回モロッコ・ヨルダン合同委員会が開催され、モロッコからはベンキラン首相が出席、ヨルダンからはアル・ヌスール首相が出席した。両国は同委員会にて、貿易、産業、持続可能な開発、手工芸、情報通信、教育、雇用、文化、スポーツ、観光などの分野における計15本の協力協定に署名した。

1.2 安保理決議第2285号の採択

29日に採択された安保理決議第2285号に関し、モロッコ外務・協力省は同日付でコミュニケを発表した。このコミュニケの中で、政府は同決議に留意するとしつつ、国連事務総長の行為を引き続き批判したが、対話を維持する旨述べている。

<モロッコ要人の外国訪問>

日付	国	氏名・肩書き	目的
-4月1日	米国	ムーレイ・ラシッド王子, メズアール外務・協力大臣	核セキュリティ・サミット出席
4月2日	ニジェール	タルビ・アラミ衆議院議長	イスフ大統領就任式典出席
4月3日	オマーン	エル・ヒンマ国王顧問, ブリタ外務・協力大臣付特命大臣	カブース国王表敬(モハメッド6世国王発親書の転達)
4月4日	ロシア	ハムーシDGST兼DGSN総局長	パトルシェフ安全保障会議書記との会談
4月5日	カタール	ベンキラン首相, ラミッド法務大臣, ブリフ設備・運輸・ロジスティクス大臣付運輸担当特命大臣, バルジャウィ国民教育・職業訓練大臣付特命大臣	第6回モロッコ・カタール合同委員会出席
4月5日	仏	ララ・ハスナ王女, ベルモフタール高等教育・職業訓練大臣	モハメッド6世環境保護財団とUNESCOの協力協定署名式主催, ボコヴァUNESCO事務局長との会談
4月7-8日	仏	メズアール外務・協力大臣	エロー外務・国際開発大臣との会談, ロワイヤル・エコロジー・持続可能な開発・エネルギー大臣との会談
4月13日	オランダ	ブリタ外務・協力大臣付特命大臣	グローバル・テロ対策フォーラム(GCTF)議長国交替式出席
4月14-15日	トルコ	メズアール外務・協力大臣	第13回イスラム協力機構首脳会議出席
4月14日	ベルギー	ブリタ外務・協力大臣付特命大臣	EU対外関係局との会合

4月16日	コンゴ（共）	タルビ・アラミ衆議院議長	サス・ンゲソ大統領就任式典出席
4月19日	エジプト	エル・ハイティ・エネルギー・鉱山・水利・環境大臣付環境担当大臣	アフリカ環境大臣会合出席
4月20-25日	サウジアラビア	モハメッド6世国王，メズアール外務・協力大臣	モロッコ・湾岸諸国サミット出席
4月22日	ヨルダン	ベンキラン首相	第5回モロッコ・カタール合同委員会出席
4月22日	米国	ララ・ハスナ王女，メズアール外務・協力大臣	パリ協定署名式出席
4月22日	ベルギー	ハッサド内務大臣，ハムーンDGST総局長（DGSN総局長兼任）	ヤンボン内務大臣兼副首相との会談
4月25日	ガボン	ハッサド内務大臣，ハムーンDGST総局長（DGSN総局長兼任），マンスーリDGED総局長	ボンゴ大統領表敬ほか
4月25-28日	バーレーン	モハメッド6世国王，ムレイ・ラシッド王子，ブーサイド経済・財政大臣，トゥフィク永代財産・イスラム宗教大臣，ラミッド法務大臣，ブリタ外務・協力大臣付特命大臣ほか	友好実務訪問，ハマド国王，ハリーフア首相，サルマン皇太子との会談
4月28-30日	カタール	モハメッド6世国王，ムレイ・ラシッド王子，メズアール外務・協力大臣ほか	友好実務訪問，タミーム首長との会談
4月30日	ア首連	モハメッド6世国王，ムレイ・ラシッド王子，メズアール外務・協力大臣ほか	ムハンマド・ビン・ザイード・アール・ナヒヤーン・アブダビ皇太子との会談

<外国要人のモロッコ訪問>

日付	国・機関	名・肩書き等	目的
4月5日	スロベニア	エリヤヴェツ副首相兼 外務大臣	メズアール外務・協力大臣との会談
4月6日	モーリタニア	ムバレク・ファル・マグレブ関係・在外モーリタニア人担当大臣	ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣との会談
4月6日	イラン	アミル＝アブラヒアン外務副大臣	ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣との会談
4月8日	ギニアビサウ	シルヴァ外務・国際協力大臣	ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣との会談
4月14日	ブルキナファソ	コンパオレ内務大臣	ブーアイダ外務・協力大臣との会談
4月15日	ガボン	ボンゴ大統領	モハメッド6世国王との会談
4月18日	フランス	アルレム・デジール欧州問題担当大臣	メズアール外務・協力大臣との会談, ブリタ外務・協力大臣付特命大臣との会談
4月18-19日	独	ガブリエル副首相兼経済・エネルギー大臣	ベンキラン首相との夕食, アマラ・エネルギー・鉱山・水利・環境大臣との会談
4月19日	国際移住機関(OIM)	トンプソン事務次長	ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣との会談
4月21日	ハンガリー	トローチャーニ司法大臣	ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣との会談, 司法分野での協力覚書署名
4月22日	ヨルダン	ヌスール首相	第5回ヨルダン・モロッコ高等合同委員会出席(ベンキラン首相出席)
4月27日	国連食糧農業機関(FAO)	セメド事務次長	ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣との会談, 第11回国際農業見本市出席

4月27-29日	エルサルバドル	マルティネス外相	第1回モロッコ・エルサルバドル政策協議, メズアール外務・協力大臣との会談ほか
----------	---------	----------	---

(了)